

「太子田の氏神・大神社」

聖徳太子堂を出て東側の道路を越えると、太子田地区の氏神・大神社に着きます。祭神は天照大神で、毎年10月20日に祭礼が行われています。拜殿には彩色された松皮葺きの本殿が安置されています。伊勢神宮と同じ神明造りといわれる様式で、高床式左右対称の構造となっています。本殿の前に鎮座する二体の狛犬こまぬの台座には、「文政十亥九月吉日」(1827年9月)の年号が刻まれており、本殿もこの時に造られたことがうかがえます。境内には高さ約20メートルのご神木のイチヨウの木があり、樹齢25年以上といわれていることから、神社の創建はその頃までさかのぼるものと考えられます。

境内の敷地はもともと現状より低く、諸福天満宮のように古堤街道から見下ろせる場所にありましたが、戦後に盛土され、昭和38年には拜殿の階段・石垣が設置され、現在のような景観となりました。

本殿を覆おおう拜殿は、昭和53年に見つかった棟札から「文久三癸亥菊月」(1863年9月)の建立であることが分かりました。拜殿前の燈籠一対もこの時に奉納されたものです。拜殿の



ご神木 (大東市保  
護樹木第14号)

中に入ると、源平合戦や楠木正成くすのきまさしげ・正行親子の「桜井の別れ」など、神話や歴史上の名場面を描いた多くの絵馬が飾られています。そのうちの



「天の岩戸開き」の絵馬

一つ「天あまの岩戸開き」は、拜殿建立時に地元の中村氏から奉納されたもので、幕末に大坂で活躍した絵師・吉川芦光よしかわろうこうの作品です。

ところで、大神社と聖徳太子堂の間の道路はもともと寝屋川と周辺の農地を結ぶ水路となっており、かつて神社の西側には船着き場が設置されていました。今回はこのような太子田地区と水との関わりについて紹介します。

(生涯学習課)



大神社の拜殿